

はじめに

本学は令和 5 年度に日本高等教育評価機構の認証評価を受審する予定です。そのため、今年度はその前年ということが強く意識されましたが、基本的には昨年からの流れを押し進める内容となりました。以下、昨年この文章を踏まえて、その後の変化を振り返りたいと思います。

第一は、創設 4 年目を迎えた介護福祉学科についてです。地域社会の強い要請を受けて開設した本学科は着実に地域へと介護専門職者を送り出し、学内での存在感も年々高まってきました。しかし、定員確保には依然として課題を抱えており、そのために系列校との連携強化や外国人学生の受け入れを初め、さまざまな努力を払っています。評価書にはそうした面もなるべく記述しました。

二つ目は未だ収束しないコロナ禍への対応ですが、これについては社会情勢を見据えながら、感染を拡げないこと、感染に伴う不利益を最小限に抑え、学生の豊かな経験の場を確保すること、代替手段の活用を押し進めることを心がけました。学生による地域貢献の実績は以前には及びませんが、状況下で可能な限りの成果を生み出したと思っています。

三つ目は文部科学省の指針に沿って実施した取り組みであり、なかでも学修成果の可視化のための調査は今年で 3 年目を迎え、IR の詳細な分析による成果が蓄積してきました。次年度は両学科のカリキュラムが揃って改訂される運びで、地域社会の学びやリメディアルに関わる教養科目等が追加されますので、学修成果の評価項目も練り直し、その成果を追跡したいと思います。

次年度に向けては、内部質保証の強化がポイントになります。本評価書に記したとおり、昨年は内部質保証の方針を定め、学内の PDCA サイクルを整理しました。これまでも多様なデータの収集と分析は行ってきましたが、今後はアセスメントプランにしたがい、内部質保証のための総合的な検証と考察を進めなくてはなりません。簡単ではありませんが、本学の教育研究活動全体を振り返る作業として、自信をもって取り組みたいと思います。

最後になりますが、執筆と資料・データの収集に携われた教職員の方々、また長期に渡る編集作業に携わり、執筆者と丁寧なやり取りをしてくださった自己点検評価委員の方々に、厚く御礼申し上げます。

八戸学院大学短期大学部学長 杉山幸子